



2024年6月25日
第208号

JR 東労組 Yokohama

JR 東労組横浜地本
発行人 助川一実
編集 情宣担当
ホームページ
<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

6月25日号

先日、かつて「修身」という学校教育があったことを知った。その教育は第2次大戦前、日本の初等・中等教育で行われ、その後1890年に明治天皇による教育勅語発布以後、「すべての価値は天皇とその国家への愛国の士気」の養成が重視された。そして、1945年敗戦後に修身教育の歴史は終わった。そのような修身教育の反省に立ち、日本国憲法と教育基本法により教育は、**〈基本的な人権の尊重〉・〈平和主義〉・〈民主主義〉**の理念が示されている。しかし、終戦から13年後の1958年、修身が道徳と名を変えて始まった。このときは評価のない教科として導入された。その後、2015年安倍政権により「道徳を特別の教科」に格上げした。

それによる変化は2つ。第一に、道徳の授業で文部科学省の検定が必須の「教科書」が使用されること。第二に「評価」が行われること。それは子どもたちが「国が育てたい国民」に方向付けられる危険性があるということ。多様な自由、人権が重んじられる現在において、自分自身も気づかないうちにコントロールされる危険性が高いということである。

かつて軍国主義が徹底され、多くの犠牲者を生み出した過去を忘れたかのように、目の前では改憲の動きが盛んで政府は近隣諸国との有事を煽り日本全体を戦場に想定したかのように、南西諸島へのミサイル基地の新設や空港や港などを整備し、いつでもどこでも米軍や自衛隊が使用できるように作り変えてきている。

現在進んでいる状況と合わせて、国家が行う道徳の教科化がもたらす意味を私たちは捉え返し、現政権に対して「NO」をつきつけ、我々からチェックしていこう。

(M・K)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。